

8、COVID-19における年齢別症例致命割合 01/06

(2021年1月6日国立感染研究所発表)

2020年12月4日時点の登録情報を用いCFR(症例致命割、case fatality ratio、死亡数／流行疾病の診断症例数)のまとめを行った結果が報告された。

基礎疾患

COVID-19レジストリで情報を取得している基礎疾患は
心疾患(心筋梗塞・うっ血性心不全)、末梢血管疾患、脳血管障害、片まひ、認知症、
呼吸器疾患(慢性閉塞性肺疾患:COPD、慢性肺疾患、気管支喘息)、肝機能障害、
腎機能障害、高血圧症、高脂血症、糖尿病、肥満、消化性潰瘍、固形がん、リンパ腫、
白血病、膠原病、HIV/AIDSであり、これらの基礎疾患を1つでも有する者を基礎疾患のある患者とした。

基礎疾患のある患者はない患者に比べCFR高く、年齢に従い上昇

全対象患者1万2,599例のうち、60歳以上は4,732例(37.6%)だった。

CFRは

全対象患者では4.2%(529/1万2,599)、

うち、60歳未満0.3%(23/7,867)、

60歳以上10.7%(506/4,732)だった。

60歳以上の

基礎疾患のない患者のCFRは4.0%(45/1,135)であり

基礎疾患のある患者12.8%(461/3,597)に比べ有意に低かった

(カイ2乗検定でのp値<0.001)。

詳しくは別掲6を参照